

新任先生にインタビュー

宇宙の謎の粒子を探して・・・



数理科学研究センター
助教授

ふな はし はる ひこ
舟橋 春彦 先生

— 京都大学からこちらに赴任されての感想からお聞かせください。

舟橋 1年生を対象に「物理学1・演習」(力学)と「物理学実験」を担当しています。今までやってきたこととは少し違うのですが、やりがいを感じています。こちらの新しい実験センターは素晴らしいですね。学生に「面白い」と言わせる実験にしたいと思っています。

赴任前は環境の違いに戸惑うのではないかと案じていましたが、4月からとても機嫌良くやらせてもらっています。数理科学研究センターには古き良き学問的雰囲気とイマドキの学生に応じた高い教育意識が在り、基礎理工学科を立ち上げるということは大変ですが必ず成果が上がると思います。

— 先生ご自身の研究について？

舟橋 大きく分けると、①宇宙の謎の粒子の探索、②中性子干渉光学、③物理教育研究、の3つになります。

— 宇宙の謎の粒子って何ですか？

舟橋 私たちの目には光る星しか見えませんが、特定の電波を詳しく観測してみたら、全く違った宇宙像がはっきりして来ました。それによると、宇宙全体のエネルギーのう



ちで、既知の物質が担っている分はたったの4%しかなくて、全エネルギーの4分の1くらいはまだ我々には見えていない粒子が担っていないといけないことがわかってきました。この「宇宙の謎の粒子」を見つけようとしています。(残りの4分の3は「ダークエネルギー」と呼ばれ、やっぱり謎。)

最近、「宇宙を満たす冷たい素粒子を地上低温実験で探す。」というタイトルでこの研究(京大との共同研究)を紹介する講演をしたのですが、その成果に大いに期待が寄せられました。発見できたら大阪電気通信大学の名がいっぺんに上がりますよ(笑)。

——物理教育の研究というのは？

舟橋 理系の専門志望の学生だけではなく、物理は、社会に出る全てのひとに学んで欲しい。本当の支えとなる教養として科学的批判精神が涵養されます。でもどうも物理は敷居が高いようで修得も容易ではありません。専門教育を闇雲に薄めただけの講義ではダメで、多くのひとに理解されるより良い講義を、それが理解されたかどうか科学的に実証しながら、開発していくことはいま必要とされる新しい研究です。

大阪電気通信大学は基礎重視の教育的風土がよくできていると思います。他の大学とも情報交換することによって、初学者向けの効果的な基礎カリキュラムを作りたいですね。

——趣味は？

舟橋 駆け出しの頃は「仕事は物理で趣味は物理」なんて嘯いていましたが、ちょっと

照れますね。木版の年賀状づくりを親父の門前の小僧から続けて30年になります。

——後援会のお父さん、お母さんに一言。

舟橋 後援会向きのメッセージではないかもしれませんが…、学生とサシで付き合いたいですね。最近は有名大学ですらいろいろと学生に親切？な「改革」を進めていますけど、大学は高校じゃないんだし、私は学生を「大学生」扱いする「不親切」な教員でいたいと思います。

◎プロフィール

1998年京都大学理学部卒業。同大学院理学研究科博士後期課程をへて、95年同研究科助手、04年講師。理学博士、43歳。

